

# 絶対に壊れてはいけな 職人による確かな 鍛造技術の伝承が強み

宮地鉄工所

つなび vol.5-10

宮地鉄工所(大田区昭和島、宮地隆社長、03・3762・5751)は、大正7年個人創業以来、鍛造業を営み、昭和23年に法人設立。現在は、宮地社長が金型設計、制作を担当し、長男の宮地大輔専務が会社全般を取り仕切っている。主に鉄の鍛造品である鉄道用車両部品の製造



昭和島の工場。様々な素材の加工が可能

が製品の出来を左右してしまう。当社では、熟練工による若手の育成に力を入れており、ばらつきのない安定した製品の製造、金型製造技術を若手で全て作れるように教え込んでいるのだ。

旧国鉄時代から永年に亘って手掛けており、他にも、国内トラックメーカー向けにトラック用スタビライザー(車輪軸安定用部品)を製造している。特に、トラック用スタビライザーにおいては、日本で生産されるトラック(2tから6t)の70%程度を生産しており、「絶対に壊れないもの」をつくってきた実績により、JRや自動車会社からの永年の信頼につながっている。

同社は、技術の伝承にも力を入れており、鍛造の作業は、エアスタンプハンマーにより約1150℃に熱せられた鉄を叩き、任意の形



巨大なエアスタンプハンマーも熟練した職人でこそ輝きを放つ

同社では、主に熱間鍛造による鍛造品を製造しているが、成形方法としては、型打鍛造法と自由鍛造法の製造技術を持ち、両方を融合させた、卓越した技術を持ち合わせている。また、様々な素材の加工経験があり、鉄だけでなく、ステンレスなどの特殊鋼の鍛造加工もできる。加熱設備の温度調節装置が対応できる範囲で、ほとんどの材料の鍛造が可能だ。少量多品種を取り扱うとともに、金型製作から一貫して行っており、短納期かつ多様な顧客ニーズを的確に製品に反映できる体制を構築している。他社に断られたような製品も積極的に受付けているので、まずは図面にて相談して欲しいとのこと。

詳しくはホームページにて

(<http://www.miw-web.co.jp/>)